

元龜四年正月四日、玄やうしゆゑん御れい申、御みまにて御たいめんあり、御あふぎたぶ、

〔元長卿記〕永正四年正月一日、四方拜、及天明云々、日高伊長退出、雨儀云々、頭中將申沙汰也、軒廊下

佳例御扇拜領祝著也、

〔御湯殿の上の日記〕弘治三年正月十七日、玄ゆんりん御れいにまゐらるゝ、御たいめんあり、ひきに御あふぎ玄ん上あり、からにしきたぶ、

〔宗建卿記〕元文二年正月二日、入夜參内、宗城同相從、先御通於申口、賜之、長橋局酌、小土器天盃在、側拜受、次立勾當内侍賜御末廣、主上依御不豫也、

〔御湯殿の上の日記〕慶長十四年正月十七日、大さかへ玄よ禮にみなくくだらるゝ、御つかひにてんそうしゆう御くだり、ひでよりへ御たち御むま一疋、御ふくろへ廿おもて、ひめぎみへ十おもてくださるゝ、みやの御かたよりひでより御たちをりかみ御むま玄ろかね十まい、御ふくろへたき物十かいくくださるゝ、

〔御昇壇記〕下寶永八年三月七日、勅使院使關東下向、略○中 年頭之御祝儀如恒例、從禁裏大樹公江

御太刀御馬代三枚 黄金 從仙洞 御太刀御馬代二枚 黄金 從女院 黄金壹枚 從新女院 同斷

從大准后 同斷

○按ズルニ、徳川氏ノ年始ニ、朝廷ヨリ拜領物ノ事ハ、勅使參内ノ條ニ詳ナレバ、茲ニハ略ス、

〔年中恒例記〕應仁亂以前正月各御ねりぬき拜領之事、伊勢同苗役之云々、略○中

一三職 一重 大名 一重 外様 一重 御供衆 一重 公家衆 一重 四日 一吉良殿 二重 東條殿 二重 又父

子出仕之時ハ、息へハ、一重 一今日出仕之外様、井奉行衆、御太刀、金拜領之、但御前奉行にあらざ

れば不被下之、一有宣 一重 在通 一重 藝阿 一重 福壽 一重 遊永 一重 一御硯きり 一重 五日

一吉良殿 二重 澁川殿 一重 石橋殿 一重 伊勢仁木 一重 四條上杉 一重 神山 一重 但吉良殿へハ、以御使被進